



国分北小の子供たちの強みを生かす

国分北小学校 川野 浩明

先日、始良伊佐教育事務所と霧島市教育委員会による合同学校訪問が行われました。この訪問は4年に1度実施されるもので、鹿児島県や霧島市、そして本校が目指す教育の方向性について、実態に応じた取組ができているかを確認していただくものです。学校のよい点をさらに伸ばし、改善が必要な点については今後どのように取り組んでいけばよいか、貴重なご指導をいただく機会となりました。

当日は、学校の現状や取組を説明した後、全ての学級の授業を見ていただきました。指導主事の先生方からは、「子供たちが落ち着いて学習していますね。」「学習のしつけがしっかりとされていますね。」「先生方が共通理解のもとに授業づくりをしていますね。」「先生と子供たちの関係がとてもよいですね。」など、たくさんの国分北小のよいところを見付けていただきました。



【授業の様子を細かく見ていただきました】

また、教育事務所長からは、「国分北小の強みを生かした取組がとてもよいですね。この取組が学校をよりよくしている原動力になっています。今後も継続して進めていくことが大切です。」という励ましの言葉をいただきました。

本校の取組の中でも特に力を入れているのが、新聞への投稿活動です。子供たちの作文や詩、俳句などの作品は、今年度10月現在で38回も新聞に掲載されました。掲載があると、教室では「おめでとう！」「すごいね！」と拍手が起こり、みんなで喜ぶ姿が見られます。普段はあまり目立たない子も、この時ばかりはクラスのヒーロー、ヒロイン。こうした経験が、子供たちの自信や意欲を育てています。



【廊下に掲示されたたくさんの作文】

国分北小には、作文だけでなく、スポーツや絵画など、いろいろな能力をもった子供がいます。その子供たちをしっかりと輝かせることが、国分北小の強みとなると考えています。

本校の校歌を書いた、椋鳩十先生も、「人間は、一人一人、みんなすばらしい力を持っている」「自分の中にすばらしい宝物をもっている。」と言葉を残しています。子供たちのそのような力を引き出し、国分北小の強みとしていくために、職員一同がんばってまいります。